

旭山動物園のペンギン展示における 紙芝居を利用したワークショップ

○奥山英登^A, 田嶋純子^A, 堀田晶子^A, 田中千春^A, 坂東元^A, 山橋知香^B, 山口悦司^B, 稲垣成哲^B

OKUYAMA Hideto, TAJIMA Junko, HORITA Akiko, TANAKA Chiharu, BANDO Gen,

YAMAHASHI Chika, YAMAGUCHI Etsushi, INAGAKI Shigenori

^A旭川市旭山動物園, ^B神戸大学

【キーワード】 動物園, 紙芝居, ワークショップ, ペンギン

1 はじめに

動物園は、理科教育や環境教育における社会教育施設でもある（日本動物園水族館協会教育指導部, 1999）。近年、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション・メディアとして、紙芝居が再評価されている（子どもの文化研究所, 2011）。幼児や小学生に加えて大人も来園する動物園において、これらのメディアを用いた教育活動を行うことは、動物園における科学教育を充実すると考えられる。

旭山動物園においては、来園者に対して紙芝居の実演を行っている。紙芝居は当園の飼育動物や展示施設を題材として創作されている。筆者らは、ペンギンの飼育展示や展示解説に対する来園者の観察を支援するために紙芝居を利用したワークショップを開発している。本稿では、紙芝居ならびにワークショップの概要について報告する。

2 紙芝居

ワークショップで使用した紙芝居「ペンギンのひみつ」は、クイズ形式で楽しみながらペンギンについて学ぶことができる。その内容は、ペンギンを観察するなど園内の展示を実際に見学することで確認できるものとなっている。従って、この紙芝居はペンギンについての知識を深めるだけでなく、来園者における動物の観察を支援することもねらいとしている。

3 ワークショップの概要

ワークショップは「親子で紙芝居！ペンギン教室」をタイトルとし、2013年3月15日から17日に3回開催された。全3回で家族連れ15組43名の参加者を募ることができた。ワークショップの流れは以下の通りである。

9:50-10:10 ペンギン館自由見学①

10:15-10:30 紙芝居の実演

10:30-10:45 ペンギン館自由見学②

11:00-11:30 休憩・「ペンギンの散歩」見学

11:30-12:00 まとめの活動

自由見学①と紙芝居の実演は、他の来園者がいない中、ペンギン展示施設内で実施された（図1）。自由見学①でペンギンについて興味を持ってもらい、その後、紙芝居を実演した。紙芝居を通して、参加者には、ペンギンについての知識を深め、さらに興味関心を持つもらうようにした。



図1. 紙芝居の実演

続いて、自由見学②と「ペンギンの散歩」見学では、紙芝居で得た知識を観察によってさらに深めるようにした。「ペンギンの散歩」見学では、参加者がじっくりと観察できるよう専用席を用意した。まとめでは、参加者間で知識の共有を図った。

附記

本研究は、JSPS 科研費 24240100 の助成を受けたものである。

引用文献

子どもの文化研究所編 (2011) 『紙芝居-子ども・文化・

保育』一聲社

日本動物園水族館協会教育指導部編 (1999) 『新 飼育

ハンドブック動物園編 第3集 概論・分類・生理・

生態』日本動物園水族館協会